



# I'mPOSSIBLE

LEARN. ENGAGE. INCLUDE.

## 東京 2020 スペシャル

# 【 東京 2020 パラリンピックの レガシーについて考えてみよう！ 】

教師用 授業ガイド

(中学生・高校生版)

- 授業の展開に沿って、【指導・声かけ例】【+アルファ情報】を掲載しています。
- 【+アルファ情報】は、すべて伝えなければならない情報ではありません。興味・関心を引き出すために、クラスのそれまでの学習経験なども踏まえてご活用ください。
- 一方的に教師が話すのではなく、生徒の既習事項などと絡め、生徒に考えさせるような展開にしましょう。

(教材の内容は、2022年4月1日現在の情報をもとにしています。)

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

東京 2020 スペシャル

## 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

国際パラリンピック委員会公認教材 1

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

### 今日のルール

**T** Think…考える 

**P** Pair……意見交換する こうかん 

**S** Share…共有する 

国際パラリンピック委員会公認教材 2

【指導・声かけ例】

- ・教師による一方通行の授業にならないように、生徒各自の考えを隣の人やクラス全体に共有しながら進行する手法をとる。

Think…一人で考える。

Pair……隣の人と意見交換する。

Share…発表を通してクラスやグループで考えを共有する。

- ・授業用シートの「Q」マークでは教師の発問と生徒の意見発表によって授業を進め、一方的な情報伝達にならないように留意する。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

### 2020 東京大会

パラリンピックが始まってから初めての1年延期された大会。一部の学校からの観戦を除き、観客を入れずに行われた。



- 2021年8月24日（火）～9月5日（日）
- 競技数：22 競技 527 種目
- 代表的な競技会場：国立代々木競技場・東京体育館
- 参加国・選手数：162 各国（難民選手団を含む）・4,403 選手



国際パラリンピック委員会公認教材 3

【指導・声かけ例】

⇒ 「東京 2020 パラリンピック大会をテレビで見たかな？  
どんな競技かな？」

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的拡大のため、1年延期された史上初のパラリンピック大会であったこと。それにもかかわらず史上最大人数の選手たちが世界中から東京に集まり、熱戦を繰り広げ、184の世界新記録が塗り替えられた。

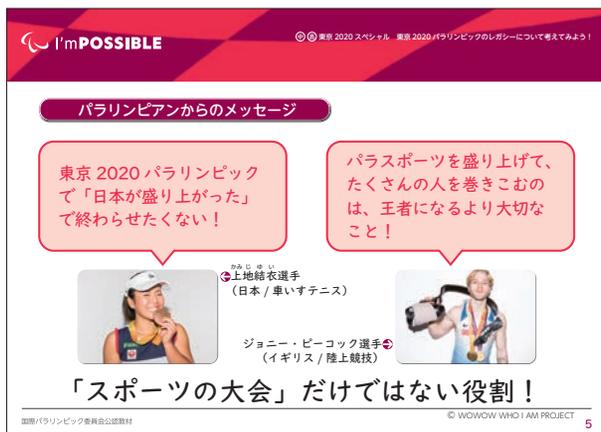


【指導・声かけ例】

- ・映像を見せる前に「印象に残った言葉を見つけてメモしておこう」などの助言をすることで、生徒の積極性を促す。

〈ワークシートの活用〉

時間があれば、映像を見た感想や印象に残った言葉をワークシートに記入させてから、数名に発表させる流れにしてもよい。→ **生徒用ワークシート**



【指導・声かけ例】

- ・映像の内容の簡単な振り返りをする。生徒に感想を聞いてもよい。
- ・パラリンピック選手の中には競技で競うことだけでなく、共生社会実現のために「想い」を持っている人がいることを押さえる。

- ⇒ 「メダルをとること以外に、どのような『想い』でパラリンピックに参加しているのかを読み取るう」
- ⇒ 「印象に残った言葉はあったかな？」

選手たちの想いへスポーツ以上の役割を持つパラリンピック (映像に登場する選手のコメント)

■エリー・コール (オーストラリア / 水泳)

競泳大国 片足のエース

「足を失ったことは、人生に起きた最高のできごとよ。多くの扉を開けてくれたし、他の人では経験できないほど人生を変えてくれた。人々が障害がある人を見たときに、“何ができないか”ではなく“何ができるか”を見てほしいと願っているの。その考えを共有するには、パラリンピックが重要なよ。」

■ザーラ・ネマティ選手 (イラン / アーチェリー)

イラン人女性初の金メダリスト

「目標は金メダルをとることだけではありません。もっと大きなものです。障害がある人自身の意識を変えること。それが最も大きな目標です。もちろん、メダルも取るわよ。」

■ナタリア・パルティカ (ポーランド / 卓球)

オリンピックにも出場する金メダリスト

「わたしの夢は、オリンピックがパラリンピックと同じようにあつかわれること。それはまだ先かもしれないけど、少しずつ近づいている。」

■上地結衣 (日本 / 車いすテニス) 車いすテニス

日本女子のエース

「パラリンピックが行われて「良かった」「大盛況だった」だけで終わってほしくない。わたしたちがそこから継続して結果を出すことができれば、盛り上がっていくと思います。」

■ジョニー・ピーコック (イギリス / 陸上競技)

男子 100m の金メダリスト

「パラスポーツへの壁をなくしたい。速く走る努力と同じぐらい壁を取り除く努力をしている。パラスポーツを盛り上げてたくさんの人を巻き込むこと、それは世界王者になることよりも大切なことだよ。」

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** パラリンピックが目指すこと

大会を通じて、**共生社会**をつくっていくこと

**共生社会**

年齢、性別、人種、障害の有無などに関わらず、  
 全ての人の基本的人権が尊重され、誰でも公平・  
 公正に自分の意思で選択できる社会

国際パラリンピック委員会公認教材 6

[指導・声かけ例]

- ・本時の東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考える前提として、導入の映像を利用しながら、パラリンピックにはスポーツ以上の役割があることを認識する。
- ・基本的人権は小学校での既習事項であるが、「人間が生まれながらにして持っている人間らしく生きる権利」と言い換えるなど、学年やクラスの状態に合わせて解説する。

- ⇒ 「共生社会（誰もが自分らしくいられる社会）は、障害があるから、これはしてはいけないとか、あそこに行くことができないといった制限がなく、自分の意思で選べるように環境や仕組みが整っている社会だよ。」
- ⇒ 「障害の有無だけでなく、年齢、性別、人種などに関わらず誰でもそうあるべきなんだ。」

※このスライドは、印刷して授業の最後まで掲示しておく  
 とよい。

**＋**アルファ情報

**【東京 1964 パラリンピック】**

日本選手 53 名はほとんどが国立病院・療養所の患者や訓練生で、仕事をしていたのは自営の 5 人だけであった。スポーツの経験もなく、この大会のために短い練習期間で間に合わせていた。一人で外出もかなわず、ましてスポーツなどはまったく縁がないというのが、当時の日本の障害者たちが置かれた状況だった。一方、外国人選手の多くは、家庭も職業も持ち、社会生活を送っている人々だった。

東京 1964 パラリンピックを契機に、日本でも「障害のある人も社会の中で他の人と同じように生活できなければならない」という考えが芽ばえ始めた。しかし、「スポーツだけではなく、さまざまなニーズがある人が、自由に平等に行動するのは当たり前」とする考えを実現する動きが本格的に始まったのは、東京 2020 パラリンピックの招致が決定した 2013 年以降となる。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**今日のテーマ**

**Q**

東京 2020 パラリンピックの  
レガシーって何だろう？

国際パラリンピック委員会公認教材 7

[指導・声かけ例]

- ・ここからが展開①となる。
- ・東京 2020 パラリンピックのレガシーについて、思い浮かぶことを数名に発表させる。
- ・ここでは正解を求めず、次ページからの具体的な事例解説に進む。

⇒ 「東京 2020 パラリンピックをきっかけに、社会はどのように変化したのかな？」

⇒ 「施設や設備の他に、レガシーはあるかな？」

**＋**アルファ情報

**【ロンドン 2012 パラリンピックのレガシー】**

2012 年にロンドンで開催されたパラリンピックは「パラリンピック史上最大の成功」を取めたといわれた。イギリスでは、成人の 3 人に 1 人 (2,000 万人相当) が「パラリンピックを境に、障害のある人への態度が変わった」、3 人に 2 人が「パラリンピックは障害のある人に対する人々の見方を変えた」と答えたという。

イギリスでは、パラリンピックを契機に、教育やメディアが継続した取り組みを行い、障害者の雇用面でも大きな変化をもたらした。2019 年の調査では、イギリスの 16 歳から 64 歳の障害者のうち約 420 万人が雇用されているが、これは 2013 年と比べて約 130 万人が増加したことになる。パラリンピックの開催は、共生社会の実現にもつながっていることを示す一例である。

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

# レガシー (legacy : 遺産)

## A 未来に受け継いでいくもの

国際パラリンピック委員会公認教材 8

【指導・声かけ例】

- ・レガシーの言葉の意味を伝え、本時の目標を確認する。
- ⇒ 「パラリンピックは、社会にどんなものを残していくのかな？」
- ⇒ 「東京2020パラリンピックをきっかけに、未来に大切に受け継いでいきたい様々な良いことが起こったよ。今日はそれを勉強しよう。」
- ⇒ 「『レガシー』は英語で、『遺産』という意味だけど、『次世代に受け継ぐもの』という意味や、『時代と共に進化し、未来へと生き続けていく財産』という考え方もあるよ。」

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

# 国立競技場を例にレガシーを考えてみよう！

国際パラリンピック委員会公認教材 提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター 9

【指導・声かけ例】

- ※必要なら下の表の情報を生徒に伝え、国立競技場に対する興味を抱かせる。
- ⇒ 「新しくなった国立競技場だよ。みんなも行ってみたいよね。みんなはどんな競技が見たいかな？ 1層にも2層にも3層にも席がある。どこで見たいかな？」

【国立競技場】

- 地上5階、地下2階（旧競技場：地上5階）  
高さ：約47m
- 観客席：約68,000席  
・国立競技場の観客席は森の木漏れ日をイメージして5つの色（白、黄緑、グレー、深緑、濃茶）が使用されている。  
・フィールドに近い部分は濃い色を多く、屋根に近い部分は薄い色を多くランダムに配置している。
- トラック：全天候型 400m × 9レーン、合成ゴム
- 芝生：天然芝（地中温度システム、散水システム）
- 木材の使用について  
・全体使用量：約2,000㎡（屋根、軒庇（のきびさし）等に使用）  
・軒庇には47都道府県から森林認証を取得した木材を調達し、スタジアムの方位に応じて配置している。

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

考えよう！

？ T P ここにはどんな工夫があるかな？



車いすエリア

国際パラリンピック委員会公認教材 10

【指導・声かけ例】

- ・写真をよく観察させ、「見晴らしがよい」「一般の席が置かれている」「スペースが広い」といったことに着眼させる。
- ・ペアで話し合わせ、数名に発表してもらおう。
- ⇒ 「写真をよく見て気付いたことを、隣の人と話し合おう。」

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

答え

視界をさえぎる物がない



いっばん  
一般の座席も設置

国際パラリンピック委員会公認教材 11

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

やってみよう！

？ T 視界がさえぎられるとどんな感じかな？

教室で  
最後列の人は座ったままで、  
それ以外の人たちが立ち上がると…

- 最後列の人はどのように感じるかな？
- 問題を解決するためのアイデアを出し合おう

国際パラリンピック委員会公認教材 12

【指導・声かけ例】

- 教室の最後列の生徒を車いす席と見立てて、次のワークを行う。
  - ① 最後列だけ座り、それ以外の生徒は全員起立。
  - ② 教師が黒板に「拍手して盛り上げて！」と書く。（教師自身も拍手をして、生徒を盛り上げる）
  - ③ 黒板の文字を消し、全員着席する。
  - ④ 最後列の生徒の気持ちを発表させる。
  - ⑤ どのようにしたら問題が解決できるか考え、発表させる。

⇒ 「車いすの人は、今の最後列の人たちのように感じる人が多いんだね。」  
⇒ 「前の人たちが立っても、車いす席の人の視界がさえぎられないように高低差があればいいね。」

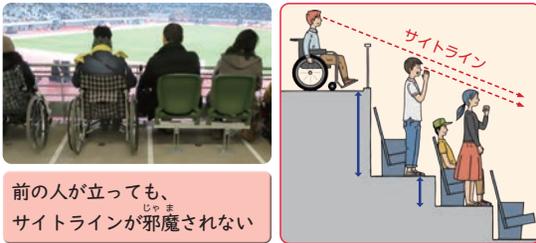
〈ワークシートの活用〉

時間があれば、問題解決のアイデアをワークシートに記入させてから、数名に発表させる流れにしてもよい。

→ 生徒用ワークシート

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

視界がさえぎられない工夫



前の人が立っても、  
サイトラインが邪魔されない

写真提供 高橋優平 13

【指導・声かけ例】

- 教室でのワークを踏まえて、国立競技場の車いすエリアはサイトラインが確保されていることを解説する。

＋アルファ情報

【車いすエリアの工夫】

- 今回取り上げるサイトラインの確保、座席数の他に、車いす席には電動車いすなどが充電できるようにコンセントが設置されている。
- 子どもの落下防止のため、席の前の<sup>さん</sup>隙間を、住宅のベランダの基準で設計している。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

考えよう！

？ T P 車いす席と座席が並んでいる理由は？



国際パラリンピック委員会公認教材 14

【指導・声かけ例】

- 車いすエリアに一般の座席がある理由を考えさせる。
- 生徒から出る考えは否定せず、次のスライドへとつなげる。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**車いす席と座席が並んでいる理由**

どうはん いっしょ  
**同伴者と一緒に観戦できる**



一緒に見られてうれしい！

国際パラリンピック委員会公認教材 写真提供 高橋優平 15

**[指導・声かけ例]**

- ⇒ 「車いすの人だけがこの場所を使っているわけではないね。」
- ⇒ 「座席に座っている人もいて、みんなで一緒に楽しんでいる。一緒に観戦できる席なんだね。」
- ⇒ 「これまでの車いすエリアには、座席はなくて、車いすの場所（スペース）しかなかったよ。一緒に行く人は、一緒に観戦するのではなく、車いすの人を介助する役割と考えられていたんだ。だから、横には並べず、車いすの後ろに席がつけられることも多かったよ。また、車いすの人の介助は子どもにはできないという理由で、子どもはその場所には一緒に行けないこともあったんだって。」

・好きな人や大切な人と一緒に、隣同士で観戦することの意味を考えさせたい。

- ⇒ 「もしあなたが車いすを使っていて、家族や友だちと一緒に映画やスポーツを見に来たのに、車いすを使っているという理由だけで、別の場所で一人で見てと言われるらどうする？どんな気持ちになるかな？」

・自分だったら競技場のどの場所で観戦したいかなどを聞いて、次のスライドにつなげ、座りたいところは人によって違うことを理解させてもよい。

- ⇒ 「こういう席は、競技場のどんなところにつくられていると思う？」

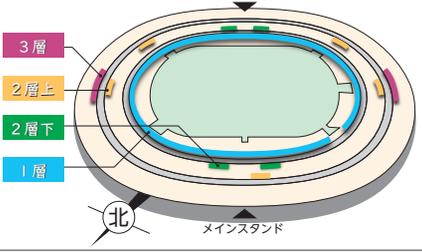
**+アルファ情報**

- ・従来の日本の施設は、車いすエリアには、車いすの人と介助者（お世話をする人）だけしか入れなかった。しかも、介助者の席は車いすの人の後ろということも多かった。しかし、車いすユーザーの中には、介助などの必要がなく一人で行動できる人もいる。行動をともにしている人が必ずしも「介助者」ではない。
- ・「介助者」ではなく、「同伴者・同行者・仲間（一緒に楽しむ人）」と言葉を変えることで概念も大きく変わり、施設のつくりも変わった。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**車いす席の配置**

各層に車いす席が設置された



3層  
2層上  
2層下  
1層

バックスタンド  
メインスタンド  
北

国際パラリンピック委員会公認教材 16

**[指導・声かけ例]**

・座りたいところは人によって違い、誰でも好きな場所で観戦したい気持ちを持っていることを理解させる。

- ⇒ 「これまでは、車いす席は会場の中にか所だけまとめてつくられることが多かったけれど、どの層でも観戦できるようになったよ。」
- ⇒ 「好きな席を選びたいよね。みんなも同じだよね。」
- ⇒ 「これまで見てきたような工夫は、障害のない人がスポーツやイベントなど、何かを見に行く時には当たり前のことだよ。車いすの人にとっては“やっと当たり前になった”という気持ちだね。」

**※「新」の座席数は東京 2020 大会開催後の数字**

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**国立競技場の新旧比較**

	新※	旧
座席数	約 68,000	約 54,000
車いす席	約 500	約 40
車いす席の割合	0.74%	0.074%

**車いす席の割合が約 10 倍になった**

国際パラリンピック委員会公認教材 17

**[指導・声かけ例]**

- ・車いす席の新旧比較をしながら、車いす席がどう変わったかを確認する。
- ・ここでは、工夫されたとはいえ、当然のことであることも理解させたい。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目 車いすエリアで観戦を楽しむには…**

- サイトラインが確保されていること
- 同伴者と一緒にいられること
- 十分な席数があり、席が選択できること

やっと普通に楽しめるようになった！



国際パラリンピック委員会公認教材 18

**[指導・声かけ例]**

- ・これまでの学習の小まとめを行う。
- ・スライドに書かれている「やっと普通に楽しめるようになった！」ことを理解できるようにする。

**+アルファ情報**

- ・スポーツや舞台などを楽しむとき、座席に関して重要な条件が3つある。①十分な席数があること②席が自由に選べること（水平、垂直方向の分散配置）③視界が十分保たれること（サイトラインの確保）である。今まで車いすの人は、前の人を立てしまうと、一番盛り上がっている場面で何も見えなくなり、疎外感を感じていた。国立競技場の座席は、③の意見が反映されて、前の人立ち上がっても視界が遮られることがない設計になっている。
- ・また手すりも、目線にかからない高さに設置されている。手すりを低くすることで、転落の可能性も指摘されたため、椅子の位置を後ろに下げるなどの工夫も行った。（後述のユニバーサルデザインワークショップの中で、最善の場所を検証した）
- ・手すりに設置されている充電コンセントは、電動車いすや酸素吸入器の充電のためのものである。初期の段階では、携帯電話の充電など、コンセント設置理由以外の目的での使用を阻止するために、コンセントのケースに鍵をつけるべきという施工者側の意見が出たが、「広い会場で人混みの中、鍵を取りに行かないと使えないのは不便。必要な時にすぐに使えないと意味がない」という当事者団体からの意見で鍵はつかないデザインが採用された。
- ・東京 2020 パラリンピックをきっかけに、バリアフリー促進のための取り組みが求められ、客席についても世界の標準に近づこうとした。車いす席が世界基準の席数に増え、様々な場所にできたことは、画期的なことではある。しかし、状況が変わったとはいえ、マイナスであったものを、やっとゼロにする改善だったともいえる。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目 他にもある！いろいろな人が楽しめる工夫**

- 多言語表記
- 水飲み場
- 補助犬用トイレ



4か国語で表示されている

小さい子どもや車いすを使う人も飲めるように、低い位置にも蛇口がある

補助犬のトイレを気にせずに、長い時間過ごすことができる

国際パラリンピック委員会公認教材 19

**[指導・声かけ例]**

- ・車いすエリア以外にも、国立競技場は障害のある人だけでなく、年齢、性別、人種などに関わらずより多くの人が公平に楽しめる工夫があることを示す。

**+アルファ情報**

**【補助犬】**

盲導犬、介助犬、聴導犬を指す。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**Q 国立競技場の設備の工夫はどのように考えられたの？**

国際パラリンピック委員会公認教材 20

**[指導・声かけ例]**

- ・ここからが展開②となる。
- ・ここまで見てきた国立競技場の工夫が、どうやって成し遂げられたのかを考えさせていく。

⇒ 「これらの工夫はどのように考えられたのかな？ 誰がこれらの工夫を考えたのかな？」

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**A** 施工者の意見だけでなく、様々な立場の人たちと対話を重ね、その意見を設計に活かした

そのために開かれたのが…  
**ユニバーサルデザインワークショップ**

国際パラリンピック委員会公認教材 21

【指導・声かけ例】

- ・国立競技場の建設にあたって、設計の段階から、国立競技場を利用する異なる立場の多様な意見を取り入れる「ユニバーサルデザインワークショップ」が開かれたことを伝える。
- ※「ユニバーサルデザインワークショップ」の名称を覚えさせる必要はないが、ワークショップの目的は授業を通して理解させる。
- ⇒「競技場をつくる人だけでなく、車いすを使う人、視覚や聴覚（目や耳）に障害のある人たち、小さな子どもがいる人など、競技場を使ったり観戦しに来たりする人たちの様々な意見が取り入れられたんだ。」

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** ユニバーサルデザインワークショップ



14 団体が参加 公式な会議だけでも21回 1回3～4時間もの話し合い 85項目の改善

国際パラリンピック委員会公認教材 提供：独立行政法人日本スポーツ振興センター 22

【指導・声かけ例】

- ・様々な立場の団体が長い期間をかけて国立競技場の設備について話し合ってきたことを伝える。
- ※話し合いと並行して、実地調査などを行い、多くの設備について提案を行い、改善してきた。
- ※下記の「+アルファ情報」を参考に、ユニバーサルデザインワークショップの具体的な参加団体をいくつか伝えてもよい。

+アルファ情報

【ユニバーサルデザインワークショップについて】

- ・国立競技場の建設をめぐっては、最初の設計案が白紙に戻り、新たに公募を行うことになった。その際に業務要求水準書に「世界最高のユニバーサルデザインを導入した施設を目指すこと」、また「当事者の意見を聞くワークショップを開くこと」が要件として盛り込まれた。障害のある人、子育て世代の人、高齢者など様々な人の意見を聞く場が設定された。
- ・全国規模の団体から、ワークショップの構成組織が選ばれた。
- ・参加団体：社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会（旧社会福祉法人東京都知的障害者育成会）／公益社団法人全国精神保健福祉会連合会／一般社団法人日本発達障害ネットワーク／社会福祉法人日本身体障害者団体連合会／社会福祉法人日本視覚障害者団体連合（旧社会福祉法人日本盲人会連合）／一般財団法人全日本ろうあ連盟／特定非営利活動法人 DPI 日本会議／公益社団法人全国脊髄損傷者連合会／一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／ミマモ・カフェ（子育て支援団体）／公益社団法人東京都老人クラブ連合会／公益財団法人日本補助犬協会（実施設計段階から参画）／公益財団法人日本パラスポーツ協会（個別ヒアリング）／一般社団法人日本パラ陸上競技連盟（個別ヒアリング）

- ・公式な会議以外でも、非公式な会合や団体ごとの個別ヒアリングが、時間をかけて丁寧に行われた。
- ・実際に実物大の模型をつくって、それを当事者が使い意見を言うという取り組みも行われた。
- ・ユニバーサルデザインワークショップの報告書は、国立競技場のホームページに公表されている。
- ・<https://www.jpnspport.go.jp/newstadium/Portals/0/sonota/universaldesignworkshopnitsuite.pdf>

【ユニバーサルデザインとは】

- ※アクセシビリティ研究所 川内美彦先生より
- ・「あらゆる人に利用しやすいデザインにすること」である。一人ひとりの「使いやすい」は、感じ方によるものもあり、皆違うものである。いろいろな人の意見を聞いて、それを活かしたデザインを求めていくこと、それができるような仕組み（体制）をつくること、そういったプロセスがユニバーサルデザインにつながる。
- ・全員が納得するユニバーサルデザインがあるわけではない。できあがったモノに対しても様々な人から意見が出て改善していくことで、ユニバーサルデザインはさらに向上することができる。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

ユニバーサルデザインワークショップで  
提案、改善された事例を見ていこう。

困ったな… どうしよう？

国際パラリンピック委員会公認教材 23

【指導・声かけ例】

- ・ユニバーサルデザインワークショップの活動を理解するために、トイレがどのように改善されたのかを見ていく。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

おむつを替えたいけど、  
男性が使える場所が  
なかなかなくて…

Q 何が改善されたのだろうか？

国際パラリンピック委員会公認教材 24

【指導・声かけ例】

- ・男性用トイレの設備がどのような提案によって改善されたのかを考えさせる。
- ・赤ちゃんを連れてくる男性が、困ることを想像できるようにイラストに着目させる。

⇒「おむつ交換台は、どこに行けばあるんだろう？」

〈ワークシートの活用〉

時間があれば、各自が考えた改善内容をワークシートに記入させてから、数名に発表させる流れにしてもよい。

→ 生徒用ワークシート

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

A 男性用トイレにもおむつ交換台を設置した

男性用トイレ案内  
Men's Toilets Guide

国際パラリンピック委員会公認教材 25

【指導・声かけ例】

- ・ユニバーサルデザインワークショップの話し合いによって、男性用トイレにもおむつ交換台が設置されたことを伝える。
- ⇒「これなら男性も安心して赤ちゃんと出かけることができるね。」
- ⇒「『子育ては主に女性がするものだ』という思い込みや偏見も、こういうところから見直していけるといいね。」

＋アルファ情報

【授乳室】

国立競技場には、トイレとは別に誰でも使用可能な授乳室も設置されている。授乳ブースは利用する人が安心して授乳できるように施錠が可能で、他にも車いすの人が授乳できる大きいブースもある。これらの設備はユニバーサルデザインワークショップで提案され実現された。

I'mPOSSIBLE © 東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

おじいちゃん男性用  
トイレに行きたいよね。  
わたしは恥ずかしくて  
一緒にいけないわ…  
一人じゃ無理だし、  
どうしよう？

Q 何が改善されたのだろうか？

国際パラリンピック委員会公認教材 26

【指導・声かけ例】

- ・車いすユーザーと異性の介助者が抱えるトイレの問題について、何がどのように改善されたのかを考えさせる。
- ・異性のペアが困ることを想像できるようにイラストに着目させる。

⇒「おじいちゃんは介助が必要だね。こんな場合、トイレについて、介助する側とされる側にとって困ることって何だろう？」

〈ワークシートの活用〉

時間があれば、各自が考えた改善内容をワークシートに記入させてから、数名に発表させる流れにしてもよい。

→ 生徒用ワークシート

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**A** 男女共用トイレ内にカーテンを付けた



国際パラリンピック委員会公認教材 27

【指導・声かけ例】

- ・ユニバーサルデザインワークショップの話し合いによって、異性介助者の利用に対応できるように男女共用トイレ内にカーテンが設置されたことを伝える。
- ・トイレへの移乗や衣服の着脱に手助けが必要でも、個人の尊厳を保つための配慮が必要なため、カーテンを付ける提案がされたことを理解させる。

⇒「カーテンが一枚あるだけで、介助のために一緒に入っても、プライバシーが守られるね。」

＋アルファ情報

【男女共用トイレ】

性の異なる介助者が、一緒に利用できる個室のトイレ。身体の性と心の性が一致しない人など、性的少数者も利用できる。

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** 今後に望むこと



ユニバーサルデザインワークショップを終えて、感じていることは？

参加者：佐藤さん

国際パラリンピック委員会公認教材 28

【指導・声かけ例】

- ・ユニバーサルデザインワークショップを開催するだけで共生社会が実現するわけではないことに気付かせ、今後必要なことを考えさせる。

＋アルファ情報

【佐藤さん：DPI 日本会議】

ユニバーサルデザインワークショップ参加者の一人。  
DPI 日本会議：「すべての障害者の機会均等と権利の獲得」を目的とする国際団体 DPI の日本国内組織（1986年発足）。障害者の権利の実現を目指す活動を通して、全ての人が希望と尊厳を持って、ともに育ち、学び、働き、暮らせるインクルーシブな社会を創ることを目指している。地域の声を集め、国の施策に反映させ、また国の施策を地域に届ける活動をしている。

＋アルファ情報

■ユニバーサルデザインワークショップに参加した DPI 日本会議佐藤さんの話より

- ・ユニバーサルデザインワークショップとして、心残りは運用マニュアルができなかったこと。施設だけが整えばよいのではなく、その設備を必要とする人に情報が届き、きちんと使えるかが重要である。
- ・車いすエリアや集団補聴設備（補聴器等に対し、音声の聞こえを補助する設備）が設置されているが、実際にそれぞれの席を必要とする人を対象にその席を販売するかは、スポーツ大会を運営する主催者側にかかっている。せっかく施設が工夫されているのに、必要な人が、その席のチケットを選んで買えないという場合もある。
- ・案内サインの前にゴミ箱が置いてあってサインが見えない、補助犬トイレの場所を係員が知らずに案内されないなど、施設や設備が整っても、それが必要な人に届いていないことが実際に起きている。
- ・また、今回のユニバーサルデザインワークショップのように、その施設を使用する人の意見を聞く取り組みが、これから他の公共施設を作る際にも、必要事項として導入され機能するかを懸念している。このような取り組みが続いていくことこそ、レガシーと言える。

I'mPOSSIBLE ©東京2020スペシャル 東京2020パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** これから必要なこと



**認知と理解** 施設の設備と目的を、必要な人に知ってもらう

**適切な運用** 施設の設備を正しく使うためのマニュアルづくり

これからも、丁寧な話し合いを続けていかないと！

国際パラリンピック委員会公認教材 29

【指導・声かけ例】

- ・施設、設備が完成して終わりではなく、認知の徹底や運用の仕方が大切であることに気付かせる。
- ・ユニバーサルデザインワークショップのような話し合いは、これからますます必要となり、続けていくことが大切であることを理解させる。

⇒「せっかく点字ブロックがあっても、その上に看板などが置かれてしまったら意味ないよね。そうならないためにも、運用マニュアルが必要なんだ。」

⇒「使いやすい施設ができて、使われなかったら意味がないよね。」

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** 国立競技場は、誰もが、気持ちよく、スポーツを楽しめるように工夫された場所

多くの人が当たり前に使っている物やサービスが一部の人には当たり前利用できない状況

国立競技場はそれを変えようとした

↓

共生社会（みんなの権利を尊重する社会）を実現させる動き  
→これもレガシーのひとつ

国際パラリンピック委員会公認教材 30

【指導・声かけ例】

・これまで学習してきた具体的な事例をもとに、国立競技場は共生社会の実現に向けた考えを反映させた施設であることを伝える。一方で、一部の人にとっては「マイナスであったものが、やっとゼロになった」だけであることも理解させる。

- ⇒ 「わたしたちが当たり前だと思っていることが、車いすユーザーにとっては当たり前ではなかったんだね。」
- ⇒ 「マイナスがゼロになるとは、車いすユーザーが好きな席を選んで、友だちと一緒に観戦できるようになったことを意味するよ。」
- ⇒ 「みんなの権利とは、社会科で学習した基本的人権と同じ意味だね。」

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

**目** 東京 2020 パラリンピックをきっかけに

公共交通移動等円滑化基準の改正

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の改正

ホームドアや駅のエレベーターの増加

ホテルのバリアフリールームの増加

国際パラリンピック委員会公認教材 31

【指導・声かけ例】

・東京 2020 パラリンピックをきっかけに、国立競技場以外でも変化が起きている事例を紹介する。

・バリアフリーを促進する法整備が進んで、障害のある人たちが旅行や外出を楽しむための環境整備も進んだことを伝える。

＋アルファ情報

- ・日本盲人会連合（現日本視覚障害者団体連合）が 2016 年に実施したアンケートでは、視覚に障害のある人の約 3 割が駅のホームから転落した経験があると答えている。
- ・2019 年 9 月 1 日施行車いす使用者用客室の設置数（義務基準）：床面積 2,000㎡以上かつ客室総数 50 室以上のホテルまたは旅館を建築する場合は、客室数の 1% 以上の車いす使用者用の客室を設けなければならない。それまでは、客室数が 50 室でも 5,000 室でも一律に 1 室以上あれば「バリアフリー対応ホテル」であった。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

東京 2020 大会をきっかけに  
共生社会を目指そうという考えが広まる

共生社会

人々の意識が変わり始める

施設や設備が使いやすくなる

話し合いが増える

法律・制度が整う

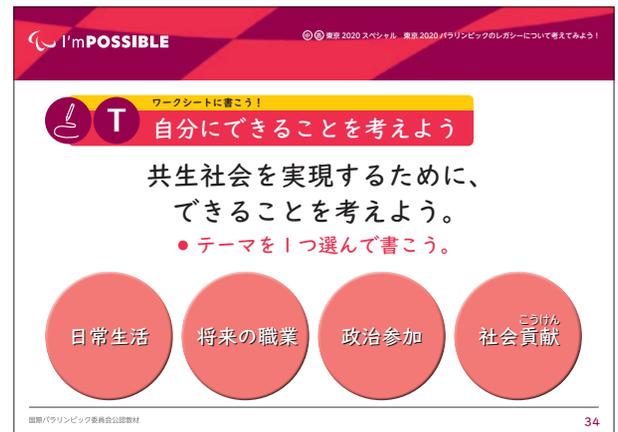
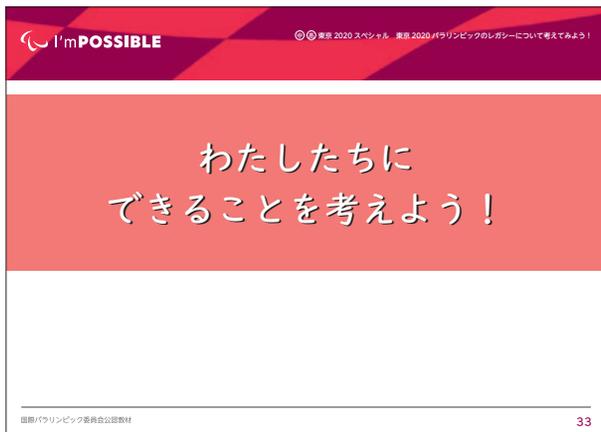
東京 2020 パラリンピック  
レガシーとして未来に受け継いでいきたい

国際パラリンピック委員会公認教材 32

【指導・声かけ例】

・展開②のまとめを行い、展開③につなげる。

⇒ 「レガシーをつなぎ、共生社会を目指す動きを止めず、一人ひとり、つまりあなたの考え方や行動が変わることが大切だよ。自分に何ができるか考えてみよう。」



【指導・声かけ例】

- ・ここから展開③となる。
- ・これまで学習してきたことを踏まえて、共生社会を実現するために、自分は何かができるのかを考えさせる。
- ・4つのテーマから1つを選ばせ、自分ができること、したいことをワークシートに記入させる。

- ⇒ 「日常生活の中で、共生社会に向けて自分にできることって何かな？」
- ⇒ 「将来就きたい職業を通じて、どうすれば共生社会実現の助けになれるかな？」
- ⇒ 「18歳になると選挙権が与えられるよ。どのような候補者に投票すれば共生社会が実現できるかな？」
- ⇒ 「共生社会を実現するために、ボランティアなどに参加して社会貢献する方法もあるね。」

【日常生活の例】

- ・自転車を点字ブロックのそばに置かないように気をつける。
- ・車いすユーザーや白杖を持つ人などが困っていたら、助けが必要かどうか声をかけるなど、自分にできることがあれば行動したい。
- ・バリアフリーを自由研究のテーマにして、深く勉強したい。
- ・電車内で高齢者や赤ちゃんのいる人などがいたら、率先して席をゆずりたい。

【将来の職業の例】

- ・レストランのオーナーになって、点字メニューを準備したり、車いすがスムーズに通れるスペースをつくったりして、誰もが食事を楽しめる場所をつくりたい。
- ・建築士になって、様々な人に使いやすい建物の設計をしたい。

【政治参加の例】

- ・選挙では、共生社会実現を訴える候補者に投票したい。
- ・将来、自分が地方議員などに立候補して、共生社会を実現させたい。

【社会貢献の例】

- ・高齢者のためのボランティア活動に参加したい。
- ・外国語を勉強し、他の国の人々と協力して、様々な人が活躍できる活動のお手伝いをしたい。
- ・共生社会につながる活動を行っている団体に寄付をしたい。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

S

## 発表しよう

国際パラリンピック委員会公認教材 35

【指導・声かけ例】

- ・数人に発表させて、クラスで意見をシェアする。
- ※課題に自主的に取り組ませるために、時間があれば、最初にグループで各自の意見を共有し、その後、数名による全体発表にするとよい。
- ※ワークシートを教室に掲示するなど、自分たちの意見をみんなで共有してもよい。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

ワークシートに書こう！

### 今日の授業を振り返ろう！

- ・レガシーについて感じたこと
- ・新たに発見したこと など



男女共用トイレ  
All gender toilet

写真提供 高橋優平

国際パラリンピック委員会公認教材 36

【指導・声かけ例】

- ・授業の感想をワークシートに記入させる。
- ※時間がないときは宿題にしてもよい。

I'mPOSSIBLE ©東京 2020 スペシャル 東京 2020 パラリンピックのレガシーについて考えてみよう！

目

### まとめ 東京 2020 パラリンピックのレガシー

#### 共生社会を目指そうという動きの広まり

- ・人々の意識・行動の変化
- ・様々な人が使いやすくなるための施設や設備の変化
- ・多様な意見を取り入れるための話し合いの増加
- ・法律や制度の整備 など

国際パラリンピック委員会公認教材 37

【指導・声かけ例】

- ・本時のまとめを行う。
  - ・最後のまとめとして、レガシーについて考えたことを大いに認め、生徒自身も共生社会をつくり出す一員であり、共生社会実現のために考えることが東京 2020 パラリンピックのレガシーのひとつであると認識できる場にする。
- ⇒ 「みんなにもできることがある。みんなが東京 2020 パラリンピックのレガシーを未来に受け継いでいんだね！」